

兵庫県パース事務所

インターンシップ報告書

経済学部 2回生

吉田 星香

実施期間：平成29年3月8日（水）～4月5日（水）

● インターンシップの研修内容

インターンシップ期間中は火曜から土曜の10時から16時まで、兵庫文化交流センター（以下「センター」と表記する）で研修を行った。

センターでは、3/25にパース駅前の広場で行われた「パース日本祭」で販売する「兵庫の味パック（兵庫県から取り寄せた5種類のお菓子等の詰め合わせ）」の作成をするのが主な活動であった。また、その合間に毎週木曜・土曜にセンターで行われている日本語教室にて会話やアクティビティのサポートをしたり、毎週土曜に行われている、日本に興味のあるセンターの会員が集まっておしゃべりをする「Chatter Box」へ参加したりした。

また「パース日本祭」終了後は、自分たちの帰国前プレゼンのチラシ・プレゼンテーションを作成、練習していた。

また、個人的に「自己リサーチテーマ」についての調査も行った。渡航するにあたり、パースで何かしたい活動を決め、それについて調査するようアドバイスを受けていたため、前々から興味を持っていた「観光」について何か活動しようと思い、テーマを「日本に旅行に来る人たちは日本の観光に何を求めているのか」というものにした。渡航前、テーマを決めようとしていたところ「日本は本当に求められているものを供給できているのだろうか」というような主張に出会った。専門知識も何も無い自分には、それが正しいか否かというのは調査することが出来ないだろうと思っていたが「日本に旅行に来る人たちは何を楽しまたいのか、何を期待して日本に来ているのか」ということであれば、専門知識が無くても聞き込み調査は出来ると思い、これをテーマにした。具体的には、センターに来ている方々に自分で作成したアンケートに回答してもらい、それに沿って話を聞く、という活動を行った。その後、内容をまとめ、帰国前プレゼンテーションにて報告した。



● インターンシップで必要な英語力・スキル

現地で生活するときに必要な英語を聞き取り、それに答えを返すことが出来るレベルの英語力が必要だと感じた。大学の授業や試験では英語が聞き取れる方だと思っていたが、実際に現地で会話に参加すると、全くついていくことが出来なかった。また、センターには日本に興味を持つ方が多く、日本に関しての質問もされるため、答えることが出来るほどの「日本に関する知識」を入れておくのも大切だと思った。だが「日本に関する知識」を手当たり次第に調べても收拾がつかないと思われるので、季節ごとのイベント時などに調べることを勧める(例えばクリスマスシーズンに「日本でのクリスマスはこのような感じだ」と調べる、等)。

リスニングに関しては普段から英語を聞いたり話したりしてトレーニングをしていた方が良い。英語を話すことに関しては、英語力だけでなく、いかに自分の意見を持っているか、知識を持っているかが大切だと思われる。自分自身、スピーキングの練習をいくら積んでいても、意見が無いと表現しようもないということを痛感した。日頃からニュースなどを見て自分の意見を持っておくと思う。

● インターンシップで得たこと

自分は日本についても、自分自身についても、何も知らないということを知ることが出来た。自分はどのような人間で、何を学んでいて、何を思っている生活をしているのか、自分が暮らしている国(日本)では何が起きているのか、世界の中ではどのような立ち位置なのか等、本当に知らないことだらけだった。また、それと同時にそれら「知識」の大切さに気が付くことが出来た。日本についての知識はもちろん、専攻している経済の知識や一般教養と呼ばれる知識など、知識があれば話が広がり、さらに新しい議論が生まれるのだと感じた。

● 印象に残ったこと

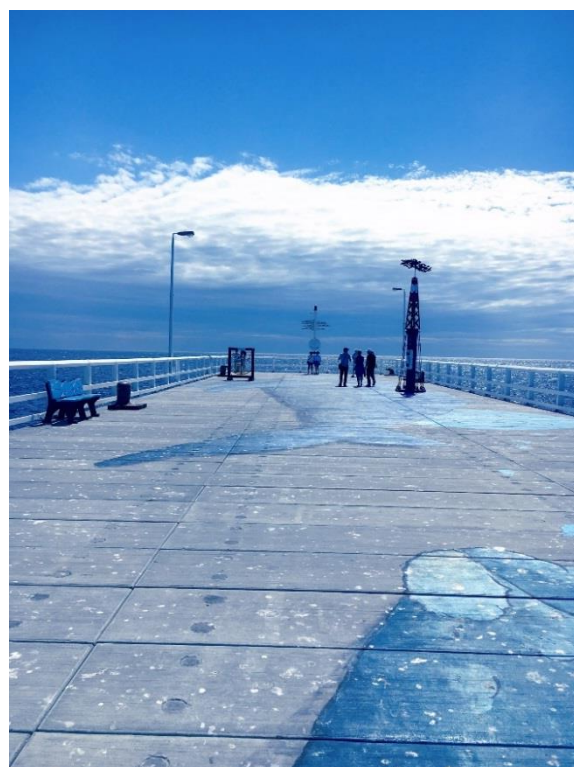
特に印象に残ったのは、様々な宗教・バックグラウンドを持っている人たちが調和して暮らしているように見えたことだ。バスや電車に乗っていると、肌の色や宗教・言語・服装が違う人たちがばかりで、人と違って当たり前、という雰囲気であった。また、知らない人同士が挨拶をしたり話を始めたりすることも印象に残った。「How are you?」といって話が始まる、素敵な空間だと思った。



プラスの感情をすぐ言葉に出して表現することも印象的だった。些細なことにも「Lovely!」「Amazing!」と言う。そして褒められたら「Thank you!」と答える。褒めるのが絶対的に良い、謙遜するのが悪い、と言うつもりはないが、自分も素直に素敵なものには素敵だと言えるようになりたいと思った。

● インターンシップが今後どう活かされていくか

上にも記述したが、「知識」の大切さを学んだので、これからはどんどん知識を吸収していきたい。今までは「自分には関係ない」と思い、入ってきた情報を遮断しがちだったが、ニュースや授業を始め、様々な人の話を聞いていきたいと思う。また「人は違うのが当たり前」ということも学んだので、人と違う自分も、自分と違う人も、受け入れていきたい。どちらも直接将来に関係のあることではないと思うが、これから人生を豊かにしていくのに大切なことだと思う。



● 後輩たちへのメッセージ

パースはとにかく人があたたかくて、過ごしやすい街です。もし明確な目的があるなら、それをどんどん人に話していくのが良いと思います。こちらが思っている以上に情報を与えてくれ、想像以上のものになっていくかもしれません。途中で苦しい思いをするかもしれませんが、苦しみに直面した時にこそ、今まで自分がどうやって困難を乗り越えてきたのか、これからどうしていきたいのか、自問自答できるチャンスになります。その苦しみも含めて価値のある経験になります。

そして私と同じようにこれが初海外になる人がいたら、渡航前はとても怖いと思います。母国語以外の言語しかほぼ通じない場所に1ヵ月も放り込まれる、それも先生引率などではなく、自分たちで飛行機に乗って行かなければならないと思うと、とてつもなく怖いです。しかもインターンシップで、ホームステイ。空港の国際線エリアにも入ったことすら無いのに、そんなこと出来るわけがない、応募するのはどうなんだろう、と思うかもしれませんが、でも、そんな人たちにこそ行ってほしいです。「大学のプログラム」という形で、大学に背中を押してもらい、日本の外に出てみてください。ほんの少しだけ、勇気を出して企画書を作成してください。「海外に行けば変わることが出来る」なんて言いません。でも、一度でいいから日本の外に出てみてください。そこには想像もしなかった景色や考え方が広がっています。

インターンシップに参加する人たちが、かけがえのない、素敵な経験をする事が出来

るよう願っています。頑張ってください。